

ふれあい

No. 4

編集発行

上越市立春日小学校

校長 田邊 道行

体育祭が終わった一週間後の全校集会で、子どもたちのがんばりをたたえた後、一つの詩を紹介しました。この詩は、私が小学校の教員になった最初の年から、教室で読み続けてきたものです。

作者は蒔田晋治さんで、静岡県の中学校の教員でした。今から58年前（1967年）、この詩を学級通信に初めて掲載したそうです。1969年に静岡市内で開かれた作文教育研究の全国大会で注目を集め、新聞やテレビでも紹介されました。そして35年後の2004年には絵本として出版され、春日小学校の図書館にもその本があります。今回はその絵本をスクリーンに映し、読み聞かせをしました。

教室は まちがうところだ

教室はまちがうところだ

蒔田晋治

みんなどしどし手をあげて
 まちがった意見を 言おうじゃないか
 まちがった答えを 言おうじゃないか
 まちがうことをおそれちゃいけない
 まちがったものをわらっちゃいけない
 まちがった意見を まちがった答えを
 ああじゃあないか こうじゃあないかと
 みんなで出しあい 言い合うなかでだ ほんとのものを見つけていくのだ そうしてみんなで伸びていくのだ
 いつも正しくまちがいのない 答えをしなくちゃならないと思って
 そういふとこだと思っているから
 まちがうことがこわくてこわくて 手もあげないで
 小さくなって だまりこくって時間がすぎる
 しかたがないから先生だけが 勝手にしゃべって
 生徒はうわのそら それじゃあちっとも伸びてはいけない
 神様でさえまちがう世の中
 ましてこれから人間になろうと しているぼくらが
 まちがったって なにがおかしい あたりまえじゃないか
 うつむきうつむき そうっとあげた手 はじめてあげた手
 先生がさした どきりと胸が大きく鳴って
 どつきどつきと体が燃えて 立ったとたんに忘れてしまった
 なんだかぼそぼそしゃべったけれども
 なにを言ったかちんぷんかんぷん 私はことりとすわってしまった
 体がすうっとすずしくなって ああ言やあよかった
 こう言やあよかった あとでいいこと浮かんでくるのに
 それでいいのだ いくどもいくども
 おんなじことをくりかえすうちに それからだんだんどきりがやんで
 言いたいことが言えてくるのだ
 はじめからうまいこと言えるはずないんだ
 はじめから答えが当たるはずないんだ
 なんどもなんども言ってるうちに まちがううちに
 言いたいことの半分くらいは どうやらこうやら言えてくるのだ
 そうしてたまには答えも当たる



まちがいだらけの僕らの教室
 おそれちゃいけない わらっちゃいけない
 安心して手をあげろ 安心してまちがえや
 まちがったってわらったり
 ばかにしたりおこったり
 そんなものはおりやあせん
 まちがったってだれかがよ
 なおしてくれるし教えてくれる
 困ったときには先生が
 ない知恵しぼって教えるで
 そんな教室作ろうやあ

おまえへんだと言われたって
 あんたちがうと言われたって
 そう思うだからしょうがない
 だれかがかりにも わらったら
 まちがうことがなぜわるい
 まちがってることわかればよ
 人が言おうが言うまいが
 おらあ自分であらためる
 わからなけりやあ そのかわり
 誰が言おうとこづこうと
 おらあ根性まげねえだ
 そんな教室作ろうやあ

絵本の読み聞かせの後、子どもたちに問いかけました。

蒔田晋治さんの詩は、どんな教室をつくろうと言っているのでしょうか。

答えようとしてくれた子どもたちがたくさんいましたが、全校集会なので、7つの場面をピックアップして子どもたちと確認しました。

- ① 「教室はまちがうところだ」 → 間違えることが普通にできる教室
- ② 「みんながどしどし手をあげて」 → みんなが積極的に発言する教室
- ③ 「みんなで伸びていくのだ」 → みんなで成長していく教室
- ④ 「安心してまちがえや」 → 安心して間違えられる教室
- ⑤ 「まちがったって わらったり ばかにしたり おこったり そんなものはおりゃあせん」
→ 発言を受け止め、否定しない教室
- ⑥ 「まちがったって だれかがよ なおしてくれるし 教えてくれる」
→ 間違いを直したり教え合ったりする教室
- ⑦ 「まちがうことが なぜわるい」 → 「間違えることがなぜ悪い」と言える教室

そして、次のように話しました。

これらをまとめると、私は次のような教室ではないかと考えます。

みんなが安心して発言できる教室

この詩は、発言できずにいる人に勇気を与える詩です。でも、本当は勇気を出さなくても、みんなが安心して発言できる教室をつくることができればよいのだと思います。

ただ、そんな教室をつくるためには、「発言する」だけでなく「聞く」ことも大切です。

「ハイ、ハイ、ハイ…」と何度も手を挙げて、自分ばかりが話そうとするのは、決してよいこととは言えません。先生方は、一人の人だけでなく、できるだけ多くの人が発言できるようにしたいと考えています。ですから、「先生が指名してくれない」「当ててくれない」「かけてくれない」と、自分が発言する権利を主張するよりも、まだ発言していない友達を応援できるとよいですね。（なお、「指名する」ことを「かける」というのは、新潟県の方言です。）

学校は まちがうところだ

私は「教室はまちがうところだ」と言える学級づくりをしてきました。今は「学校はまちがうところだ」と言える学校にしていきたいと考えています。ただし、一つだけ してはいけないことがあります。

それは、わざと間違えることです。一生懸命に考えて間違えたり、頑張って取り組んで失敗したりすることはよいのですが、わざと間違えてはいけませんし、わざと失敗してはいけません。それは、一生懸命にがんばる心を失わせてしまうからです。

みんなが安心して失敗できる学校を、一緒につくっていきましょう。失敗したっていいじゃないか。

全校児童にこのように話し、6月は学級づくりに力を入れて、学級会（学級活動）に積極的に取り組むよう教職員にも話をしました。

にじいろ学年(2年生)

にこにこ えがおで なかよし
 じっくり かんがえ 学びあう
 いろんなことに チャレンジ
 にじいろっ子

身近な地域や人、野菜などのかかわりを通して、わくわくする活動を体いっぱいに行ってきました。「にじいろ農園」では、毎朝収穫を期待しながら畑に向かう子どもの姿が見られます。野菜作り以外の活動からも、いろいろなことを発見し学ぶ姿があります。まだまだ、わくわくは続きます。これからも2年生の成長ぶりにご期待ください。



収穫の喜びでいっぱいの『にじいろ農園』！



「あるるん畑」では、旬の野菜や新鮮な魚を見たり、お店の人にインタビューをしたりしてきました。



「かなざわ総本舗」では、上越の名菓をいただき、子どもたちも大満足！



毎日たくさんの野菜を収穫！新鮮な野菜が採れて大喜びです。



4学年 かがやき

<学年目標>
笑顔☆輝け！

4年生になり、上学年の仲間入りをしました。学校行事やのびやか活動に意欲的に取り組んでいます。3年生で知った春日山のお宝を未来につなげるために「自分たちは何ができるのか」を考えて活動しています。

5月

～探鳥会～



春日山には、自然がたくさんあるから鳥もたくさんいるんだと思いました。

講師の先生がおっしゃっていた「毎日が探鳥会」を合言葉にこれからも勉強していきます。

大好きな春日山をもっときれいにするために、精一杯取り組みました。

6月

～松葉かき～



～体育祭～



～交通安全教室～

